

(公財)神戸大学六甲台後援会だより (85)

3月に卒業生を送り出し、そして4月に新入生を迎えました。夏に向かい、新入生もだんだんと新しい環境になれ、新入生が他の学生と同化していく季節です。学年を問わず、キャンパスにいる多くの学部生にとって、大学を無事に卒業できるのかは、学生生活の中で大きな関心事であることはいままでもないでしょう。卒業、という要件だけを考えると、それぞれの学部で定められた授業科目と所定の単位数を修得することが卒業要件です。授業科目の選択は、必修とされる科目以外は学生に任されています。結果として社会科学系の学生の場合、卒業までに何を学んだのかは、結果として履修し、修得した科目によって異なるため、学部より詳細な「獲得した知識」を目に見える形で示すことは思ったほど容易ではありません。特に、卒業だけを目標とし、単位をとりやすい授業科目を優先的に選択すると、体系的に「何を学んだのか」を説明するのは難しくなります。

他方、大学や学部には、変化する社会の中で一定の体系的知識を伝え、修得した卒業生を送り出したいという希望があります。学生の中には、単に卒業するだけではなく、より高度かつ体系的な知識を獲得したいという志をもって入学する学生もいるはずで、そのような学生に対する教育が求められています。学部の中で学科を新設するには多大な時間と労力が必要とされますし、1学科制へと移行した各学部の動向とも反する動きです。そのため、学部内に特定の目的の特別プログラムを設けるよう

になってきました。プログラムで一定の授業科目群を開講し、それを履修させることにより体系的な知識を与えることが目的の一つとされます。卒業まで履修要件が固定されるコースとは異なり、プログラムは途中での離脱も(望ましいことではありませんが)可能ですし、時間割が許せば複数のプログラムに属することが可能です。このようなメリットがあるためか、各学部に設けられたプログラムの数は、近年になってさらに増加しているように思われます。六甲台の社会科学系部局も例外ではなく、多くのプログラムが同時に運営されています。

大学院のプログラムとして、特に博士課程前期課程では経済・経営・法各研究科が共同で実施するKIMAPプログラムや、経営学研究科が小樽商科大学・和歌山大学と共同で実施するBVCCプログラム等が本誌で紹介されて参りました。ここでは、多くの学部受験生が目にする六甲台の学部教育で行われている特別プログラムを挙げたいと思います。

○経済学部

・5年一環経済学国際教育プログラム(IFEEK)・・・海外協定大学への半年もしくは1年の留学を伴いながら、大学院博士課程前期課程までを最短5年で修了するプログラム。

・法経連携専門教育プログラム・・・法学部と共同で運営する、知的財産や規制改革など経済的・法的側面が複合する課題に対する総合的・複眼的な解決能力の開発を目指すプログラム。

○経営学部

・KIBERプログラム・・・海外協定大学への1年間の留学を伴いながら、4年で卒業するためのプログラム。KIBERプ

ログラム参加生は、学業成績により3年半での早期卒業と1年半の大学院博士課程前期課程の教育課程を経て、5年で修士号を取得するKIMERAPログラムに参加可能。

- ・会計プロフェッショナル育成プログラム…会計学に関する専門職業人を育成するため、公認会計士試験の早期合格（在学中合格）を目指すためのプログラム。

- ・経営データ科学特別学修プログラム（神戸経営DSP）…経営学を使い、データを用いて経営を考えることの出来る人材を輩出することを目指したプログラム。

○法学部

- ・法経連携専門教育プログラム（既述）

- ・法科大学院進学プログラム（法曹コース）…法学部の法科大学院の連携を強化することにより、5年間で司法試験の受験資格が得られるようにするプログラム。

様々な教育目的で多様な特別プログラムが進行していることがわかりいただけるのではないかと思います。それ以外にも、全学で実施している神戸大学数理・データサイエンス・AI教育プログラムなども存在していますし、六甲台では3学部で共通のプログラムとして相互履修促進プログラムが毎年実施されています。社会科学系部局で実施される特別プログラムの多くは、六甲台後援会からの助成を受けており、同窓の皆様のご支援によって可能となっております。ご支援に厚く御礼申し上げます次第です。

ただ、これらのプログラムが神戸大学の特徴として同窓生の

皆様に認知されているかは、一つの問題であると教員として認識しております。特別プログラムの多くは大規模ではないため、卒業生・修了生の数は決して多くはなく、その効果が広く理解されるには多少の時間が必要であります。一教員としては、この場を借りてプログラムをご紹介するとともに、より良い広報について、可能な限り取り組んで参りたいと考えております。

これらのプログラムを継続・発展させていくためには、同窓生の皆様のご理解とご支援が欠かせません。六甲台後援会へのご寄附は、学生の学びと成長を支える大きな力となります。母校のさらなる発展のため、引き続きのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

（経営学研究科教授 清水泰洋）

令和8年度事業計画について

公益財団法人神戸大学六甲台後援会は、財団設立以降、主に本学の社会科学系部局の学術の発展と教育の充実に寄与することを目的として次のような事業を行っています。

- 1、学術交流の促進に対する助成
- 2、学術成果の公開に対する助成
- 3、教育の充実に対する助成
- 4、学術研究に対する助成
- 5、学術基盤の整備に対する助成
- 6、その他財団が必要と認める助成

さて、令和8年度事業計画につきまして、その概要をご報告申し上げます。事業計画は、昨年12月、社会科学系各部局に対

して助成事業の募集を行い応募申請された各種事業について、それぞれの事業が本財団の公益事業として相応しいかを理事会において審査し、承認されたものです。今年度から新たに、研究者招へい支援の制度を拡大し、特命教員の人件費（2名分・合計2,400万円）を助成いたします。

このような各種事業は、皆様から今までにいただいた寄附金の運用収益や新たに卒業生の皆様等からいただいた貴重な寄附により行っています。（単位万円）

1. 学術交流の促進に対する助成……………計 3,617

(1) 海外派遣支援 (911)

(2) 研究者招へい支援 (特命教員) (2,400)

(3) 学会・シンポジウム・カンファレンス・ワークショップ等開催支援 (306)

等開催支援 (306)

2. 学術成果の公開に対する助成……………計 573

(1) 学術研究成果刊行に対する支援 (253)

(2) 海外学術雑誌投稿に対する支援 (320)

3. 教育の充実に対する助成……………計 2,040

(1) 学部学生の教育に対する支援 (535)

ア. 成績優秀者に対する奨学金支給 (社会科学特別奨励賞)

イ. 4年間の成績優秀者に対する支援 (六甲台賞)

ウ. 各部局における各種教育プログラムに対する支援

エ. 学部学生の海外派遣に対する支援

オ. 学部相互履修科目開講支援

カ. キャリア形成に対する支援

(2) 大学院学生の教育に対する支援 (1,145)

ア. 各部局における各種教育プログラムに対する支援

イ. 大学院生の海外派遣に対する支援

ウ. 神戸大学MBA加護野忠男論文賞

エ. エクスターンシップ実施支援

オ. 内部進学者への奨学支援

(3) 特定の基金による学部学生及び大学院学生の教育に対する支援 (360)

ア. 凌霜研究奨学基金による教育に対する支援

イ. 田崎奨学基金による奨学金支給

ウ. 久研究奨学基金による海外研究活動に対する支援

4. 学術研究に対する支援……………計 750

(1) 研究プロジェクトに対する支援 (400)

(2) 社会システムイノベーションセンターに対する支援 (特命教員研究費を含む) (300)

(3) 特定の基金による学術研究に対する支援 (50)

ア. 裏山研究奨学基金による学術研究に対する支援

5. 学術基盤整備に対する助成……………計 315

6. その他財団が必要と認める助成……………計 50

(1) 専門職大学院に係る教育研究環境整備 (ベビーシッター

サービス提供支援) (50)

合 計 7,345

六甲台賞の授与について

令和7年度の「六甲台賞」が各学部において授与されました。

六甲台賞は、六甲台3学部を卒業する者で、各学部において学

業成績が最も優秀であった者に対し、その努力を讃えるため授与されるもので、令和元年度に神戸大学六甲台後援会が凌霄43年会から引き継いだものです。受賞されたのは次の方々です。(経済) 戸田裕華学生、(経営) 光崎日菜学生、(法) 安井大遥学生の皆さんです。

神戸大学MBA加護野忠男論文賞の授与について

3月28日(土)、令和7年度MBA加護野忠男論文賞の授賞式が行われました。受賞されたのは、金賞は三谷大地氏の「『ブラック霞が関』の内側へ―国家公務員のモチベーション形成をめぐる逆説構造の質的分析―」、銀賞は関谷祐輔氏の「ヒットコンテンツの創出メカニズム―卓越した番組制作者は『創造』と『実現』の壁をいかに越えるのか―」、銅賞は佐々木智哉氏の「日系製造業におけるM&Aの経営効果と課題―資産効率と収益性の分析―」です。

なお、MBA加護野忠男論文賞は、神戸大学MBA内部で行っていたものを令和2年度から神戸大学六甲台後援会の事業として行っているものです。

いつも皆様のご寄附誠にありがとうございます

前号でご報告させていただいた以降、年度末までに次の皆様からご寄附をいただきました。

金額別に、日永 陸様(令2経) 3千円、横山寿信様(平3法)、浅野大策様(昭50経)、匿名様(平25経)、山口裕康様(昭61営) 各5千円、野間 修様(昭45法)、服部法律事務所・服部

廣志様(昭46法)、出原 敏様(昭47法)、住吉健作様(平31法)、敏森廣光様(昭48経)、山本茂樹様(昭50経)、安田芳治様(昭38営)、村田正隆様(昭46営)、太田義人様(昭51営)、尾関清志様(昭45営) 各1万円、櫻木修一様(昭45法)、井谷哲也様(平16法)、小林 仁様(昭36営)、吉村 進様(昭41営) 各2万円、後藤勝美様(昭51経)、若狭一弘様(昭55経) 各3万円、徳田栄造様(昭43法)、小野俊明様(昭36経)、瀧端美博様(昭49経)、渡会武嗣様(昭30営) 各5万円です。これで令和7年度中の受入額は団体からのご寄附も含めて、合計1億788万4千円になりました。

令和8年度になってからは(5月10日現在)、匿名様(平6経) 2千円、田島善光様(昭43経)、岸本康秀様(昭36営)、匿名様(昭39営) 各5千円、木村三男様(昭45法) 1万円、中野和夫様(昭41経) 2万円、三宅基治様(昭44経) 3万円、番 尚志様(昭44営) 5万円、本岡 洋様(昭39経)、平松秀則様(昭42営) 各10万円、計32万7千円ご寄附いただきました。誠にありがとうございます。

毎回お願いしています寄附金の送り先は左記のとおりです。

◎銀行送金の場合(メール電話FAXでも結構ですから、)

送金されたことを六甲台後援会事務局宛にご一報ください。

銀行名 三井住友銀行六甲支店

口座番号 普通預金 4069496

口座名義 公益財団法人神戸大学六甲台後援会

メールアドレス k-koenkai@rokkodai fund.com

電話・FAX (078) 861-3013

◎郵便振替の場合（通信欄に卒業年次と出身学部をご記入ください。）

口座番号 00980-9-116772

口座名義 公益財団法人神戸大学六甲台後援会

◎本財団ホームページからのご寄附

ホームページ「ご寄附」のWEB申込みフォームからご寄附いただけます。<https://www.rokкодaifund.com>

WEBフォームからの申し込みは、クレジットカードも銀行振込も、ともに寄附の入金確認まで時間（15日から45日）を要する場合がありますので、ご了承ください。

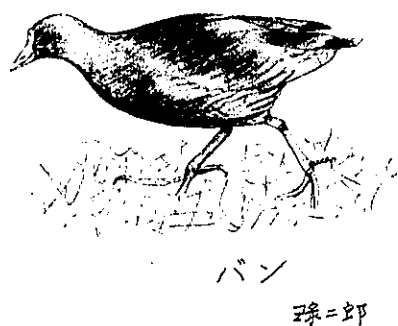
〒657-0068

神戸市灘区篠原北町4-11-5

公益財団法人神戸大学六甲台後援会事務局

電話・FAX (078) 861-3013

E-mail: k-koenkai@rokкодaifund.com



国民経済雑誌 第230巻 第2号（令和8年4月）3

論 文

誰がUBIと財政再建を支持するのか？

アンケート調査に基づく計量分析.....宮崎智視
高橋樹生
富田愛優

人事管理の実務家における「リサーチ・プラクティス・ギャップ」:

その実態・背景についての経験的研究.....江夏幾多郎
余合淳
田中秀樹